

第14回コンテスト テーマ「朝」 各国大会の大賞・入賞作品

※一部作品を抜粋して掲載しています。

日本大会 (大賞)



おひさまは
ねばうしないで
えらいよね
Never oversleeps...
The sun
Is wonderful!

三善 優花 6歳 Japan (日本)

日本大会 (大賞)



向日葵の
下が僕らの
秘密基地
Beneath
The sunflowers
Our secret fort

王 榮耀 11歳 Taiwan (台湾)

セネガル大会 (入賞)



はるかかなた
太陽姿現し
さん然と輝く
In the distance;
The sun appears
Shines with a thousand lights
Au loin
Apparait le soleil
Qui brille de mille feux

SECK Mohamed Gaye 13歳 Senegal (セネガル)

エストニア大会 (大賞)



露のしずくに濡れて
足の指十本がもぞもぞ
私から花が咲いたみたい
In the dew drops
Ten toes scurrying
I blossomed
Kastetilkades
Sibavad kümme varvast
Puhkesin õide

Rea Haljasmäe 12歳 Estonia (エストニア)

明日の空へ

より良い社会を
繋げるために、
私たちができること。 vol.41

JAL
CSR REPORT

私たちが大切に考える4つの分野

日本と世界を結ぶ

安全・安心

次世代育成

環境



世界の子どもたちの国際交流&文化理解を深めるために 「第14回世界こどもハイクコンテスト」開催



公益財団法人 JAL 財団と JAL が連携し
行っている「世界こどもハイクコンテスト」。
第14回大会にも多くの作品が集まりました。

世界の子どもたちにハイクを作る楽しさが広がり、
文化交流も盛んに。写真はポルトガル大会の表彰式。

ハイクを通して国際交流と
異文化の理解を楽しむ

東京オリンピックが開催された1964年、JALは人や物だけでなく「日本文化」も海外に届けよう、アメリカで「ハイクコンテスト」を行いました。それをきっかけにイギリス、カナダ、オーストラリアでもコンテストが行われ、世界最短の詩「ハイク*1」が世界に広まり始めました。

JAL財団が設立された1990年からは、応募対象を15歳以下の子どもへと変更。2年に1回、設けられたテーマに沿った、絵とハイクから構成される作品を募集し、「世界こどもハイクコンテスト」を行っています。この26年間に14大会を開催し、これまでに計52の国・地域から68万点を超える作品の応募がありました。

この取り組みは、世界の子どもたちにハイク創作の楽しさを広め、感性を養いながら、俳句を生み出した日本と日本文化や世界の異文化への理解、また国際交流を促進することを目的としています。作品には、各国の景色や国情柄、社会情勢や価値観などが反映されており、添えられた絵によりそれらの理解が深まります。なお、各国・地域で大会を行い、それぞれ大賞や入賞作品を決定。世界中の大賞作品を集め、世界一を決めることはしません。他国との文化の違いを知り、認め合い、それを楽しむ交流を大切にしています。

応募国・地域が過去最多に
点字・点図作品の応募も

2015年から2016年にかけて、「朝」をテーマに行われた第14回大会では、36の国・地域から2万6000を上回るハイクが寄せられ、参加国・地域数が過去最多となりました。大会初開催国も多く、アイルランド、バルト3国(エストニア、ラトビア、リトアニア)、ネパール、ルーマニア、セネガルで新たに行われました。なおセネガルは、初のアフリカでの大会開催となりました。このようにハイクは世界中にどんどん広がりをみせています。

また今大会では、母国語でない言葉でハイクを作り、その言葉の国の大会へ応募するパターンが増加。例えば、日本の子どもがイタリア語でハイクを作り、イタリア大会に応募する、といったことです。学習した他国語を使っている子どもが増え、文化の理解、交流が活発になっています。

さらに、前々回の日本大会で点字・点図作品が大賞を受賞したことをきっかけに、世界各国の大会で点字・点図作品や養護学校からの応募が増えました。今回のラトビア大会では、ラトビア語の点字・点図作品が大賞に。このように、多くの子どもたちがハイクを通して文化理解や交流を深めています。そして、以前より年齢の低い子どもたちからの応募が増え、今回は2歳の

応募者も。より多くの国・地域へハイクが浸透しつつあるだけでなく、より幅広い年齢層へハイクを作る楽しさが広まっています。

さらなる普及を目指して
海外ブックフェアにも参加

世界こどもハイクコンテストを通してさらにハイクを広げるため、JAL財団ではさまざまな活動を行っています。毎回、大賞受賞作をまとめた作品集『地球歳時記』を出版し、大会開催国や教育機関に配布。この作品集は国内外の教科書にも掲載され、ハイクが世界中の教育に生かされています。さらに、俳句の作り方をまとめた冊子『俳句の作り方』を、13カ国語で制作し、さらなる普及に努めています。

また、前回大会から海外のブックフェアに前述の2冊を出展。世界各国の子どもたちのハイク創作への取り組みなどを紹介しました。訪れたお客さんには地球歳時記を手にとったいただき、作品を載せた絵はがきも持ち帰りました。

加えて、財団設立25周年を記念し、前回大会の大賞受賞作を歌詞に取り入れた合唱曲「夢の木」を作成。国内の合唱コンクールなどで歌われることで、世界こどもハイクコンテスト日本大会の応募増加を目指しています。そのほか、多くの方に世界こどもハイクコンテストの大賞作品をご覧いた



イタリア・ボローニャのブックフェアでハイクに触れる親子。

だけるよう、JAL国際線ボーイング787型機の機内エンターテインメントの電子書籍「SKY MANGA」に搭載したり、サクラウンジ*2で絵はがきをお渡ししています。また、JAL財団のウェブサイトで、世界各国の大会の全受賞作品をご覧いただけます。JAL財団とJALは、今後も連携して、世界こどもハイクコンテストをはじめとする国際交流と相互理解を促進する公益事業を行っています。

「世界こどもハイクコンテスト」の取り組みや
全受賞作品は下記ウェブサイトをご覧ください。
www.jal-foundation.or.jp/wch.html

*2 JAL 便にてご出発の際にご利用いただけます。
ご利用基準など、詳しくは下記をご覧ください。
www.jal.co.jp/dom/service/lounge/ (国内線)
www.jal.co.jp/inter/service/lounge/ (国際線)